

博士論文要旨

非伝統的居住地域における朝鮮族コミュニティの研究 ——社会的・経済的資源の相互依存の視点から

立命館大学大学院国際関係研究科

国際関係学専攻博士課程後期課程

ナン ギョクケイ

南 玉瓊

本論文は、非伝統的居住地域における朝鮮族コミュニティの形成・維持のメカニズムを明らかにすることを目的にしている。そのため、伝統的居住地域としてハルビン市を、非伝統的居住地域として深圳市、青島市、燕郊鎮を調査地域に選定し、朝鮮族コミュニティ内部の原因、中国の地域による民族政策的影響、韓国はじめ外国からの影響という三つの方面からコミュニティの形成・維持のメカニズムを究明している。

研究方法としては、エスニック・コミュニティ論における原初性論と道具論を組み合わせたうえで、エスノ・シンボリズム論的な視角も取り入れた。また、レイモンド・ブレトンの提起した、エスニック・コミュニティを見るうえでの団体の重要性という視点を受け継いでいる。さらに、本稿ではソーシャル・キャピタルを補充・強化する資源という視点をも取り入れた。そこから、国内外の社会的資源と経済的資源が相互依存するという視点を提起し、かつ、四地域の朝鮮族コミュニティを比較するマルチサイテッド・エスノグラフィーの手法を用いた。

論証過程としては、まず、中国の民族政策及びそれが中国朝鮮族コミュニティに及ぼす影響を考察し、伝統的居住地域と非伝統的居住地域の社会状況を確認した。次に、伝統的居住地域と非伝統的居住地域の朝鮮族コミュニティの形成・維持プロセスをハルビン市、深圳市、青島市、燕郊鎮を例に、それぞれ考察して、最後に各地の特徴を浮き彫りにしている。

その結果、以下のことが明らかになった。第一に、非伝統的居住地域における朝鮮族コミュニティは、社会的団体の生み出す社会的資源と経済的団体の生み出す経済的資源の相互作用の結果である。第二に、非伝統的居住地域における朝鮮族コミュニティは地域ごとの特徴を持つ。すなわち、深圳市の朝鮮族コミュニティは、経済的資源の創出に熱心であるのに対し、燕郊鎮では中国政府との連携が強く、青島市では、外国との強い連携で社会的資源の創出が活発に行われている。